

脇谷 徹

2020年9月21日[月・祝]—10月24日[土]

武蔵野美術大学美術館 展示室2・3、アトリウム1・2

日曜休館 時間 | 10:00—18:00(土曜日・祝日は17:00閉館) 入館料 | 無料
主催 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館 協力 | 武蔵野美術大学 共通彫塑研究室

Toru Wakiya—The Act of Drawing

《扉を開ける》2019年 テラコッタ



※都合により会期等が変更になる場合があります。

素描とこころと

武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
Tel:042-342-6003
<https://mauml.musabi.ac.jp>

WUM&L

武蔵野美術大学 美術館・図書館では「脇谷徹—素描ということ」を開催します。本展では、彫刻家・脇谷徹(本学共通彫塑研究室教授)の初期の作品から新作に至るまで、各時代の彫刻作品と、素描・絵画を中心とした平面作品を紹介します。

脇谷が制作においてただひたむきに目の前にある対象物と向き合い、視覚的特徴や質感・立体的なボリュームをつかみ、実在性を浮かび上がらせようとしてきた様が、作品から見えてきます。ありのままの「かたち」をつかむ行為全般を「素描」と捉える脇谷は、平面作品も立体作品も同じ「素描」の発露だとしています。装飾を取り払い、必要最低限の描線で空間の中あるいは紙の上に「素描」された「かたち」を目の当たりにすると、普段私たちがいかに印象や概念に影響されて事物を認識しているかということに改めて気付かされます。

本展が脇谷徹の真っ直ぐで力強い作品世界と、造形における「素描」という表現の本質にふれる機会となれば幸いです。



1



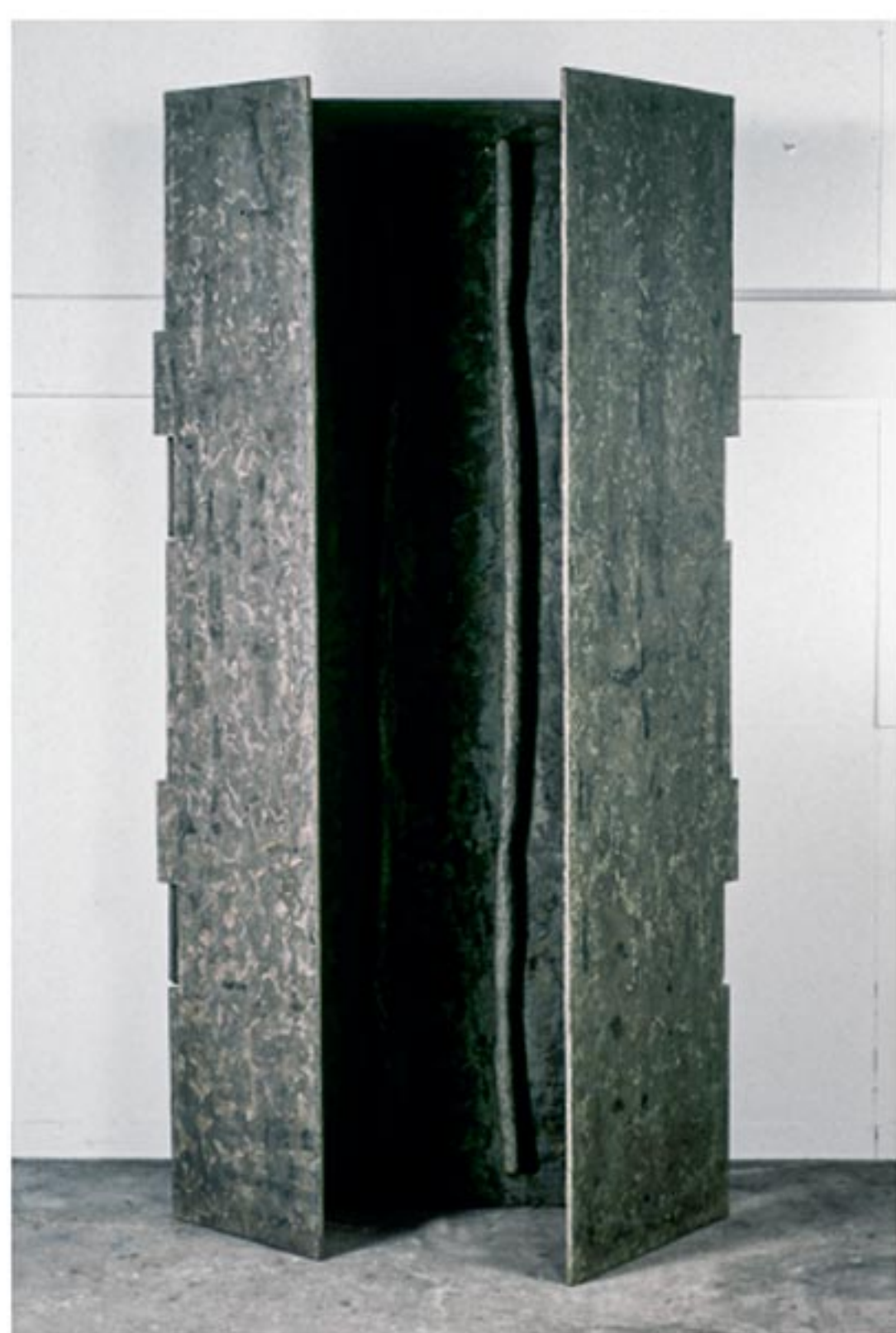
2



3



4



5

脇谷徹—素描ということ Toru Wakiya—The Act of Drawing



6



7

【関連イベント】

●ギャラリートーク

展覧会会期中に、脇谷徹のギャラリートークによる解説動画を公開いたします。

※詳細は当館webサイトにてお知らせいたします。

●オンラインワークショップ

「粘土で『素描』」(仮)

脇谷徹を講師に、粘土を用いて対象物を「素描」する塑像体験講座をオンラインで開催いたします。

※日程等詳細は当館webサイトにてお知らせいたします。

【同時開催】

イラストレーションがあれば、
The Possibility of illustration

2020年9月21日(月・祝)—10月24日(土)

【アクセス】

- 西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
 - 国分寺駅北口徒歩3分、西武バス「武蔵野美術大学」行き、または「小平営業所」行きに乗り、「武蔵野美術大学正門」下車(バス所要時間 約20分)
 - 立川駅北口(5番乗り場)より立川バス「武蔵野美術大学」行きに乗り、「武蔵野美術大学」下車(バス所要時間 約25分)
- ※お車でのご来館はご遠慮ください。



8



9

1. 《金属素描I》1977年 鉄
2. 《箱II》1985年 木
3. 《背中》1975年 ペン・墨汁・白コンテ
4. 《自画像》1974年頃 鉛筆・コンテ・水彩
5. 《扉I・棒が七本・内に》1996-1998年 木心乾漆
6. 《男の像》1975年 油彩・カンバス
7. 《牛》1976年 ペン・墨汁・鉛筆
8. 《金属素描III》1979年 鉄
9. 《悠》2017年 鉛筆

武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
Tel: 042-342-6003
<https://mauml.musabi.ac.jp>

